

第16号 ぶんきんニュース

2009/10/30



ぶんせき秘帖・集合写真

目 次

☆ 行事予定

- ・ 第3回 基礎分析化学実習 p. 2
- ・ 第2回 支部講演会 p. 2

☆ 報 告

- ・ 2008年度第二期近畿分析技術研究国際助成 p. 4
 - ・ 第56回 機器による分析化学講習会 p. 5
 - ・ 日本分析化学会近畿支部 第3回夏期セミナー p. 7
 - ・ 第1回 基礎分析化学実習 p. 19
 - ・ 近畿支部 フレッシュ役員 自己紹介コーナー (その2) p. 20
-

行事予定

第3回 基礎分析化学実習

主催：日本分析化学会近畿支部、近畿分析技術研究懇話会

期 日：平成 21 年 11 月 20 日（金） 13:00～16:30

会 場：(株)堀場製作所 分析アプリケーションセンター

[京都市南区吉祥院宮の東町 2]

<交通> JR 西大路駅から徒歩約 13 分、阪急西京極駅から徒歩約 15 分。タクシーの場合、JR 京都・京阪七条・阪急桂駅よりそれぞれ約 15 分。

内 容：

講義 ラマン分光法の歴史／顕微ラマン分光法の原理／装置構造と分析パラメータ／アプリケーション実例

実習 もし同じパラメータ条件で測定したら／最適パラメータ条件の設定で改善するスペクトルの品質

参加費：無料

定 員：12 名

申込方法：「第3回基礎分析化学実習（11/20 開催）参加」と明記のうえ、(1)受講者氏名、(2)勤務先、(3)連絡先（郵便番号、住所、所属、電話・FAX番号、E-mail アドレス）を記入し、下記宛にお申込下さい。

問合・申込先：(社)日本分析化学会近畿支部

〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-8-4 大阪科学技術センター6階

[電話：06-6443-5531, FAX：06-6443-6685, E-mail：mail@bunkin.org]

第2回 支部講演会

主催：日本分析化学会近畿支部、近畿分析技術研究懇話会

期 日：平成 21 年 12 月 4 日（金）15 時～17 時

会 場：大阪科学技術センター8階小ホール（大阪市西区靱本町 1-8-4, 電話：06-6443-5324）

<交通>地下鉄四つ橋線「本町」駅下車、北へ徒歩約 7 分、うつぼ公園北詰。

内 容：

1. 「I l o v e NMR－分析化学の中でのNMR－」

神戸薬科大学 杉浦 眞喜子 氏（15 時～16 時）

2. 「NMRからMR I へー分析化学のテーマを拾うー」

大阪大学大学院医学系研究科 藤原 英明 氏（16 時～17 時）

参加費：無料

申込方法：「第2回支部講演会参加申込」と題記し、1)氏名、2)勤務先、3)連絡先(E-mail、TEL、FAX)をご記入のうえ、下記宛お申し込み下さい。参加証は発行しませんので、直接会場にお越し下さい。

問合・申込先：(社)日本分析化学会近畿支部

〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-8-4 大阪科学技術センター6階

[電話：06-6443-5531, FAX：06-6443-6685, E-mail：mail@bunkin.org]

報 告

2008 年度第二期近畿分析技術研究国際助成

☆ 13th IACIS International Conference on Surface and Colloid Science and the 83rd ACS Colloid & Surface Science Symposium

☆ 船木 万壽郎（大阪大学大学院・理学研究科化学専攻・M2）

☆ アメリカ・コロンビア（2009. 6. 14～19）

この度私は、IACIS の国際学会と ACS の年会の合同開催という形で行われたコロイドと表面化学のシンポジウムである 13th IACIS International Conference on Surface and Colloid Science and the 83rd ACS Colloid & Surface Science Symposium に参加した。

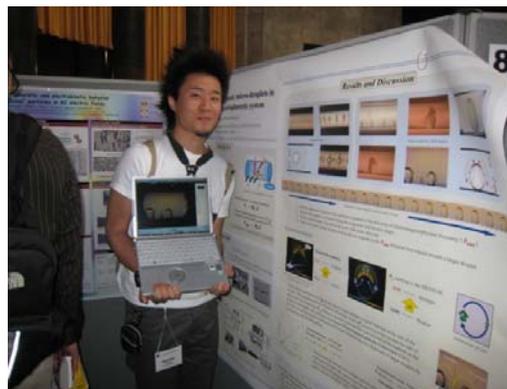


会場のコロンビア大学

6/14～19 の一週間にわたって開かれたこの学会は、多くの国の人々が参加しており、非常に国際色豊かであった。また、連夜にわたり国際的なエンターテイメントなども開かれており、私も自身の発表が終わった日の夜にブラジルの伝統音楽やサンバを見に行っただ。学会のプログラムにこのようなものが含まれているとは全くの予想外で、とても印象的だった。

このような学会の Wednesday Poster Session において、私はポスター発表を行った。まず印象的だったのがセッションのス

タイルだ。質問者は皆ビール瓶とお菓子を手に非常に緩い感じでポスター発表を回っていた。日本と違うとは聞いていたが、日本での、スーツを着てかなり固い雰囲気での発表するイメージしか持っていなかったもので、このときは非常にショックを受けた。



ポスター発表中

ビールも持ち込みではなく、酒類の売り場が会場に併設されていた。これにもただ驚くばかりだった。そのような中、私のポスターにも 5・6 人の方が聞きに来てくださった。どの方にも非常に興味深い研究だと言われたことがとてもうれしかった。中には今後の方向性など、具体的なアドバイスを下さった方もいたので、とても充実した発表だったと思う。私の英語はかなり稚拙だったので、十分に会話として成立していたとは到底思えないが、それも含めこの発表は非常に良い経験になった。今後このよ

うな舞台に立てるかどうかはわからないが、次に備えてもっと確かな英語力が必要であることを痛感した。英語以外にも、自身の研究領域の内外を問わず広く知識を深めておきたいと思う。というのも、他の発表者のポスターを見て回った時、理解できないものが多かった。自分の研究に活かせるものがあるかもしれないと思うと、国際学会という場の一期一会のチャンスを逃している気がした。ポスターに限らず、口頭発表もいくつか聞いたが、やはり同じことを感じた。自分に足りないもの、これから身に付けるべきものがはっきりした一週間だっ

た。学会以外にも空き時間を使ってニューヨークを散策した。初めての海外だったので、見る物や文化はどれも新鮮だった。自由の女神も見ることができたので非常に満足できた。このように私の初めての国際学会は得る物の多い大変有意義な時間であった。ここでの経験を無駄にすることなく確実に今後に生かしていきたい。

最後になりましたが、渡航費用を助成して頂き、このような素晴らしい機会を与えて下さった日本化学会近畿支部の方々に厚く御礼申し上げます。

第 56 回 機器による分析化学講習会

主 催： 日本分析化学会近畿支部，近畿分析技術研究懇話会
協 賛： 日本化学会近畿支部，近畿化学協会ほか
期 日： 2009年7月23日（木）・24日（金）
会 場： 京都大学吉田キャンパス〔京都市左京区吉田本町〕
京都工芸繊維大学〔京都市左京区松ヶ崎御所海道町〕（科目7<ESR法>のみ）

本年度の機器による分析化学講習会は、平成21年7月23日（木）・24日（金）の両日京都大学・吉田キャンパスならびに京都工芸繊維大学・松ヶ崎キャンパスにおいて開催された。本講習会は日本分析化学会近畿支部が毎年主催している恒例行事の一つであり、本年度は第56回を数えるに至っている。各機器メーカーのご厚意により最新の分析機器を用いた実習と講義を行い、入門から応用までの幅広いニーズに応えるべく、各科目主任・副主任を中心にご尽力いただいている。本年度実施した科目ならびにそれぞれの定員、実際の受講者数、各科目の実習テーマ等を以下に記す。



科目1: 高速液体クロマトグラフィー（定員10名／受講者12名）〔科目主任：（京工織大院）池上 亨，科目副主任：（滋賀県大環境科学）丸尾雅啓〕

(1) 逆相 HPLC 分析の基礎と実際 1; (2) 逆相 HPLC 分析の基礎と実際 2; (3) 親水性相互作用クロマトグラフィー (HILIC) の基礎; (4) キャピラリー-HPLC の基礎と実際; (5) モノリスカラム; (6) HPLC におけるバンド拡がりの基礎; (7) イオンクロマトグラフィーの基礎と実際

科目 2: キャピラリー／マイクロチップ電気泳動 (定員 6 名／受講者 5 名) [科目主任：(京大院工) 北川文彦, 科目副主任：(産総研) 竹田さほり]

(1) キャピラリー電気泳動 (CE) の基礎; (2) CE の実際; (3) マイクロチップ電気泳動の基礎

科目 3: 質量分析法 <GC-MS, LC-MS> (定員 10 名／受講者 6 名) [科目主任：(阪大環境安全研究管理セ) 角井伸次, 科目副主任：(JCL バイオアッセイ) 砂川明弘]

(1) GC-MS の基礎; (2) LC-MS による定量分析の基礎

科目 4: 原子スペクトル分析・前処理法含む (定員 16 名／受講者 7 名) [科目主任：(阪市工研) 河野宏彰, 科目副主任：(阪薬大) 山口敬子]

(1) マイクロ波試料分解法による測定試料溶液の調製と超小型プラズマ発光分析装置による定量; (2) 固相抽出法による微量元素の分離濃縮; (3) 水素化物発生原子吸光法による環境試料中のヒ素の定量; (4) グラファイトファーネス原子吸光法による環境試料中の鉛の定量

科目 5: 蛍光 X 線分析と X 線回折 (定員 10 名／受講者 8 名) [科目主任：(兵庫県立大院工) 村松康司, 科目副主任：(堀場製作所) 内原 博]

(1) 蛍光 X 線分析による元素分析; (2) X 線回折

科目 6: マイクロ波による蛍光試薬の迅速合成実習 (定員 12 名／受講者 5 名) [科目主任：(ミネラルライトラボ) 松村竹子, 科目副主任：(ミネラルライトラボ) 増田嘉孝]

科目 7: 電子スピン分析法 (ESR 法) (定員 8 名／受講者 7 名) [科目主任：(ミネラルライトラボ・京都スピラボ) 山内 淳, 科目副主任：(京工織大院) 田嶋邦彦]

科目 1～6 は昨年度実施したものと同様で、今回新たに科目 7 の ESR 法が加わった。実際の実習は、科目 1～6 が京都大学、科目 7 が京都工芸繊維大学においてそれぞれ実施された。総定員 72 名のところ全受講者数は 50 名と定員を割り込む結果となったが、科目によってはその分余裕をもって実習を行うことができ、受講生にはかえって好評であった。いずれの実習科目においても各出展メーカーからの十分なサポートをいただき、最新の機器を使用した密度の高い実習と講義を提供することができたものと考えている。



また今回初めての試みとして、第一日目の昼休みに機器メーカーの提供によるランチョンセミナーを開催したが、冷房の効いた部屋で昼食をとりながら講義を聴くことができるであって満席の盛況であり好評を博した。なお、第一日目の実習終了後、実験室横のラウンジで若干の飲み物と軽食を用意して懇親会を行ったが、場所が狭いことがかえって幸いしたのか、参加者相互の交流が予想以上に進展しあちこちで話の輪が広がっていた。講習会の最後に受講生に対して行ったアンケートの結果や指導員の印象などから、総じて今回の講習会は講義と実習のバランスが適度であり中身の濃いものであったといえることができ、受講者数が少なかったことは残念であるが講習会所期の目的は達せられたと考えている。



ランチョンセミナーの様子



懇親会の様子

本講習会は機器メーカーの献身的なご協力がなければ決して成立しないことは言うまでもないが、特に昨今の経済状況を鑑みた時、今回も従来どおりのご支援をいただいた参加メーカー各位には心からの謝意を申し上げる次第である。また今回残念ながら参加を見合わせられたメーカーにおかれても、次年度以降再びご協力を賜ることができれば誠に幸いである。

最後に、実習会場をご提供下さった京都大学工学研究科材料工学専攻、京都大学人間・環境学研究科および京都工芸繊維大学、そして会場担当として並々ならぬご尽力をいただいた弓削是貴氏（京大院工）に感謝申し上げます。本稿の結びとさせていただきます。

委員長 大塚 浩二（京都大学工学研究科）

日本分析化学会近畿支部 第3回夏期セミナー ぶんせき秘帖～巻ノ参～ 化学の秘伝を伝授いたします！？

主 催：日本分析化学会近畿支部

日 時：2009年8月5日（水）午後～8月7日（金）午前

会 場：関西セミナーハウス（〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23）

今年で第三回目の日本分析化学会近畿支部夏期セミナー「ぶんせき秘帖～巻ノ参～」が京都の北、修学院離宮に近い関西セミナーハウスで8月5日から二泊三日の日程で行われた。学生49名、一般24名（講師を含む）の参加があった。今年度は京大院工河合研の山本孝氏のもと開催される予定だったが、徳島大学転出のため、急遽、私が実行委員長を拝命した。幸い前年度の経験から開催場所を既に押さえていただいたため、会場探しにあたふたすることがなかった。

近畿支部では、若手の交流に非常に理解があり、ぶんせき秘帖には多くの予算を割いていただいている。また、昨年の実行委員長の大阪府大の久本氏が、近畿支部の会員にカンパを募ったおかげで飲み代も潤沢にある。さて、企画をどうするか？それが問題だ。

三回目ともなるとマンネリになる危惧もあり、なかなか良いアイデアがないまま、とりあえず特別講演と依頼講演の人選だけをしておこうと、実行委員の皆さんに推薦していただいた。講演内容は、普段学会等では聞けないお話をして頂いた方が良くろうと思い、各講演者の皆様にはその旨を伝え特にテーマを絞ることは行わなかった。また、学生の多くは企業へ就職するため、企業で研究開発等を行っている方への講演の依頼を行った。

今回も、特別講演、依頼講演と学生のポスター発表という形式を踏襲した。計画は決まれども、やはりどれくらいの学生が参加してくれるか分からず、 μ 切間近になってもなかなか申し込みが無く少々不安が募ったが、締め切り日に多くの学生の申し込

みがあり胸をなで下ろした。

初日は、京都大学工学研究科 垣内 隆先生の「であるようなないような - 無限定的限定における党派性のすすめ」の特別講演から始まった。このタイトルを頂いたとき、どのような講演が行われるのかと思ったが、垣内先生も講演の冒頭でこのタイトルでの講演を準備していたが、大変であることが分かったと告白されていた。大学における研究の進め方から始まり、研究のタイムスケールを水のイオン積 K_w の決定方法を例に取り説明された。（水を42回減圧蒸留するなど非常に長いタイムスケールがかかっている。）



現在の短期間の研究では研究成果を求めるあまり、創造性を奪う危険性があること。やって役に立つ研究はあるが、好奇心をそそる研究があるのかについて、酸塩基滴定の滴定曲線を例に話が続き、CDR&D (Curiosity Driven Research and Development) 好奇心に動かされる研究開発に立ち返る必要があるのではないか。これができるのは大学しかないと言われた。最後に物わがりの悪い人になって欲しい。分からないことを大事にし、深く追求する姿勢を忘れてはいけない（批判的精神と懐疑的態度を持ち、自分独自のスタイルを確立

すること.). この様な研究姿勢を大切にしたいとのメッセージで締めくくられた。

その後、全員の自己紹介ではパワーポイントで一人一人の参加申し込みファイルをランダムに表示し、自分の研究紹介等を行った。中には歌の演奏もあった。開催が三回目となるので過去に参加した先輩から、どの様な会であるか聞いている学生もあり、自己紹介でバーベキューを楽しみにしているといていた学生もいたが、今回はバーベキューを行わないため期待には添えなかった。

ポスターセッションには全体で 51 件の申し込みがあった。学生同士が熱心に討論しており、会場の横にはこぢんまりとしたラウンジがあり、ポスターセッション後も多くの学生が夜遅くまで語っていた。



二日目は依頼講演を行った。アカデミクな立場の椎木 弘 (大阪府大)「ずっと夢見て」、西野 智昭氏 (大阪府大)「分子探針を用いた走査線型トンネル顕微鏡による単一分子の分析」の二講演。西野氏からキャリアパスとしてのテニユアトラックについての説明があり、応募には中身を十分吟味をすることが大切であると説明された。

その後、企業で研究開発している方の講演が続いた。寺田 久美氏 (三菱電機) は「女

性で技術者 (研究者) として就職したら」、開本 亮氏 (島津製作所)「特許制度の基本とノーベル賞受賞者の特許について」、小池 亮氏 (花王)「企業における研究活動とは? -分析部門の現状とあるべき姿-」、能勢 博氏 (トランスジェニック)「バイオベンチャーの研究について」の四講演。中でも開本氏の講演では、元日亜化学の中村修司氏の 6 ページの特許が示され、彼がこれで得た代価は 6 億円になり (1 ページ 1 億円)、また、島津の田中耕一氏が書いた 4 ページの特許で公示日が明示でき、ノーベル賞に結びついたとの説明があった。

二日目の講演のあとは自由時間であったが、閑静な住宅街に施設があるため見るべきところは近くの曼殊院しか無く、学生の“飲み”以外の交流が出来なかったのが残念であった。

夕方は懇親会であったが、若者向けの食べ物を依頼しておいたがあつという間に無くなってしまい、その後の学生企画は若干の準備不足のため開催を早めることが出来ず、手持ちぶさたな時間であった。もう少し食べ物の確保が必要であった。若者の食欲は恐るべきモノである。



学生企画は、京大人間・環境学研究所の学生によるビンゴ大会が行われた。元素番

号にちなんだ問題に各グループが解答し、その元素番号でビンゴをするというものであった。かなり凝った問題があったため、思いの外正解が出なかった。最初にビンゴが出たチームには、堀研究室にあった“モノ”が景品として渡された。その後、ポスターセッション其の式が行われ、前日同様活発な論議と宴が繰り広げられていた。



二日間の深夜にわたるディスカッション(?)もあり、最終日は睡魔が会場をおそっていたが、三戸 彩絵子氏(地球環境産業技術研究機構)「分析化学から離れて身に沁み込んだこと」、山本 孝氏(徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部)「研究室を渡り歩いて」の講演で締めて頂いた。三戸氏からは、人に自分の研究を伝える難しさを、自身の経験を基に話して頂いた。また、山本氏からは、研究室を渡り歩いた経験から、人とのつながりが大切であり、学会等でいかに人脈を作るかとの話があった。

最後に学生による投票で選ばれたポスター賞の発表を行い、中江 保一君(京大工学研究科 D1)、野田 達夫君(京大農学研究科 D1)、松谷 広君(京大工学研究科 M2)、野村 吏志君(関学理工学研究科 M2)、谷川 佳奈さん(京大工学研究科 M1)、松浦 公香

さん(阪大理学研究科 M1)、堤 瑛里奈さん(大阪府大工学研究科 M1)ら七名が受賞し賞状と図書カードの贈呈を行った。



来年は、京都大学原子炉実験所の上原 章寛氏が実行委員長を務めていただけのことになった。分析化学会本部から支部への予算配分の減額が検討される中、財政的には少々厳しくなりそうであるが、将来も出来る範囲でぶんせき秘帖が展開していくこと期待したい。

今回、ぶんせき秘帖の実行委員長をつとめて、私自身の興味あるテーマで講演して頂いたので、それぞれの講演者のお話しを大変おもしろく聞かせて頂いた。しかし、学生の皆にはどうであつたらうか。本会の基本は学生相互の親睦を図ることがメインであるが、次世代の分析化学会を担っていく人材の育成、将来の研究に於いて研究者同士のネットワークを作り出す土台になっていけば有意義な会となろう。今後、参加した学生が日本分析化学会にどれだけ貢献してくれるかは未知数であるが、将来の役に立つものと期待したい。

お金がないと会の開催は難しいが、やはりそれ以上に実働してくれる人がいないと会の運営は成り立たない。本会を開催するにあたり、久本氏(大阪府大)、吉田氏(京

都工織大), 佐々木氏 (京大), 安川氏 (兵庫県立大), 中原氏 (和歌山大), 諏訪氏 (阪大), 上原氏 (京大), 末吉氏 (京大) に実行委員を引き受けて頂いた。日本分析化学会近畿支部事務局の才寺さん, 河合さんには大変お世話になった。学生企画では, 京

大院人環 堀研究室の白川, 八木両君に大車輪の活躍をして頂いた。また, 今年度も飲み代の寄附, 現物の差し入れを頂いた。この会をサポートして頂いた方々に, この場を借りて御礼申し上げます。

(京大院・人間環境 高橋 弘樹)

ぶんせき秘帖～巻ノ参～ に参加して

中江 保一 (京都大学大学院・工学研究科 D1)

2 度目の参加となった今年度のぶんせき秘帖でしたが, 期せずして昨年に引き続き2 年連続でポスター賞を頂くことができました。ポスターに興味を持って頂きディスカッションをして頂いた皆様ありがとうございました。

昨年は残念なことに初日激しい雷雨に見舞われ自転車での参加を見送らざるを得ませんでした。今年は近いこともあり自転車で会場に向かうことにしました。大学からそう遠くない場所ということで油断していたのですが, 会場となっていた関西セミナーハウスの直前の坂の勾配が非常にきつく, 到着した際の予想以上の疲労に日頃の運動不足を痛感する結果になってしまいました。

今年から博士後期課程に進み, 昨年よりは研究者という職種に対して現実感のようなものが感じられるようになってきました。若手の研究者育成の為に, 先輩方の話を聞き, 同じ分析分野の学生と交流することができる素晴らしい場を提供して頂いていることは本当にありがたいことだと改めて感じています。

9 人の先生方の講演がありましたが, 研



究の話に織り交ぜられた失敗談や趣味の話等から研究人生の紆余曲折を感じることができました。昨年も参加していたのですがどの話も非常に新鮮なものでした。中でも特許とノーベル賞に関する話では知的財産権の重要性と化学分野でのノーベル賞受賞者の取得特許数の多さに驚かされました。

ポスターセッションでは X 線検出器用の信号処理回路を廃し, コンピュータに搭載されているマイク入力端子内の A/D コンバータとコンピュータ上のソフトウェアだけで X 線分析を行うというような内容で発表させて頂きました。多くの方からコメントを頂くことができ今後の研究の励みになりました。

学生企画も企画立案・運営, 本当にお疲

れ様でした。お手伝いらしいお手伝いもできませんでしたが、問題も豊富に用意されており大変だったと思います。

堅苦しい雰囲気なく飲み物片手に行われるぎっくばらんなポスターセッションは初めての発表でも気兼ねなく参加できます。また研究室外の方とのディスカッションやコメントはいつもとは違う視点から自分の研究を見つめなおす良い機会になりました。

なによりポスターセッションを皮切りに深夜まで続く懇親会で他の大学の学生と交流を深めることができ、他愛も無い話から意外と真面目な議論まで非常に良い刺激になると思います。

来年は熊取ということで、チェレンコフ光が見られるのではないかと密かに楽しみにしています。来年も盛況なぶんせき秘帖になることを期待しております。

分析秘帖 ～巻ノ参～ に参加して

野田 達夫（京都大学大学院・農学研究科 D1）

今年で3回目を迎える「ぶんせき秘帖」。1回目から参加している私は、早くも3回目の参加となりました。前回に続いて今回で2度目のポスター賞を頂けたのも、指導して頂いた先生方、研究室の仲間達、私のポスターを気に入ってくれた方々、また夜の飲み会で仲良くなった方々のおかげです。ありがとうございます。さて、「ぶんせき秘帖」について一筆書く機会を頂いたので、少しコメントさせていただきます。

今までに参加したことのある人はよく御存知かと思いますが、「ぶんせき秘帖」でのポスター発表はアルコールを片手に行われます。しかも、自分のポスターの所にやってくるのは、普段の学会みたいに先生方や企業の方々がほとんど…という訳ではなく、大半は自分と同年代の学生です。初対面の人が多いとは言え、そうした「飲み会」のような環境でポスター発表を行うため、説明する方も質問する方も遠慮せずに自分の意見を言ってしまう。そんな雰囲気が「ぶんせき秘帖」の一つの魅力であるように思



います。

私は緊張しいなので「発表」と名がつくものは本当に苦手です。普段、研究室で行われるセミナー発表ですら未だに緊張してしまうし、ましてや学会での口頭発表なんて足がガクガク震えてしまうこともあります。私みたいな人は少なからずいるかと思いますが（私だけ？）、だからと言って「発表」から逃げて回ることはできません。勇気を振り絞って挑戦し、数を重ねて自分に自信をつけていくしかない。私の場合、昨年の「ぶんせき秘帖」が初のポスター発表となった訳ですが、打ち解けた雰囲気で普

段よりも積極的に発表に取り組み、昨年、今年と重ねていくことでポスター発表に臨む感覚のようなものが少し身についたように思います。きっと、そうした積み重ねが学会での「発表」を苦手・億劫なものから、楽しいものへと変えてくれるのかもしれない。少なくとも、「ぶんせき秘帖」に参加することで、学会でしかなかなか会えない他大学の友達が増えるのだから…。

ポスター発表にまだ挑戦したことのない方や苦手だと思う方は、気さくな雰囲気でも発表できる「ぶんせき秘帖」に参加してみ

てはいかがでしょうか？研究室を飛び出しての他大学の学生との交流は、それだけでも良い刺激になります。拙い文章でどこまで読み手の皆さんに伝えられたか自信はありませんが、興味を持たれた方はぜひ来年参加して、一緒に楽しみましょう！来年度の「ぶんせき秘帖」が盛大に行われることを期待しております。

最後になりましたが、今年度の「ぶんせき秘帖」を企画・運営、また夜遅くまで学生企画の準備を行い、盛り上げてくれたセミナー実行委員の皆様にご挨拶申し上げます。

分析秘帖 ～巻ノ参～ に参加して

松谷 広（京都大学大学院・工学研究科 M2）

関西セミナーハウスにおいて8月5日から7日に開催された、第三回日本分析化学会近畿支部夏季セミナーに参加させていただきました。関西セミナーハウスは京都市左京区内にあり、地図上で見ると同区内に住む私の下宿から非常に近く見えたため自転車で向かうことにしましたが、実際に行ってみると急斜面の山道をかなり登ったところであり、想像以上にその道のりは長く感じました。大変な道のりを経ただけあって、関西セミナーハウスは京都市内とは思えないほど自然に囲まれており、都会の喧騒と離れて落ち着いた時間を過ごすことができましたように思います。

今回のぶんせき秘帖には、先生方や企業の方の講演、学生のポスター発表、懇親会、学生企画があったわけですが、どのセッションにおいても学生と先生方の距離が近く、意見や議論がしやすい環境であったことが

非常に印象的でした。



講演においては大学、研究所あるいは企業と様々な立場の方が、それぞれの立場から見た分析に関する研究のお話をしてくださり面白かったです。私個人としては普段の学会の発表では聞けないような企業における知的財産の話や、実験ノートを書き方に関する話が非常に興味深く、特に実験ノートに関しては、それ以後その話を参考にしてしっかり丁寧に書くように努力してい

るところです。

ポスター発表においては、どちらかというと普段はあまり他のポスターに関する質問をしない私も、お酒の力を借りながら、積極的にいろいろな人に質問させていただきました。ポスターを見ているだけでは、まったく理解できないような発表でも、話を聞かせていただくと大まかな理解ができ、少しは有用な意見交換もできるものなのだなと感じました。また、私の研究発表においても、思った以上に多くの方に話をきいていただき新鮮な質問や意見を伺うことができました。

学生企画ではビンゴとクイズと周期表を織り交ぜたゲーム大会が行われて、非常に盛り上がりました。私は現在の研究室に所属して3年目ですが、去年、一昨年は日程が合わず参加できなかったため、今回が初めてのぶんせき秘帖でありまた、他の研究

室の方とは面識もほとんどなかったため、懇親会や学生企画は緊張しました。しかし学生の方だけでなく先生方にも気さくに声をかけていただき、研究の話から恋愛の話まで、想像以上に様々な方と様々なお話ができました。

私個人は就職予定ですので来年以降のぶんせき秘帖には参加できませんが、3日間じっくり他大学の先生方や学生、あるいは企業の方と交流できるぶんせき秘帖は、外の世界との交流の場が限られている修士の学生にとって、非常に魅力的な企画だと感じました。

最後に、諸事情により企画運営できなかった私たちの研究室に代わり、ぶんせき秘帖～巻ノ三～を、企画運営してくださったセミナー実行委員の皆様はこの場をお借りして感謝申し上げます。

分析秘帖 ～巻ノ参～ に参加して

野村 吏志 (関西学院大学大学院・理工学研究科 M2)

今回、京都の関西セミナーハウスで開催された、日本分析化学会近畿支部主催の『夏季セミナー 第三回分析秘帖』に参加させていただき、多くの貴重な体験をさせていただきました。それらの経験について、大きく「講演」「ポスター発表」「学生企画・自由懇親会」の三つに分けてご報告させていただきます。

「講演」に関してですが、通常の学会の様な先進的な研究内容についてだけではなく、諸研究者の方々の研究室を渡り歩いた経験や、企業における研究とは、女性研究



者としての在り方等、普段なかなか聞く事のできない貴重なお話を聞かせていただく事ができました。他の研究者の方々の研究

内容を知る事は勿論重要な事ですが、この様な普段見る事の出来ない研究の側面に触れると云う事もまた大切な事ではないかと思えます。そしてこの様な講演内容を聴講できる事は、本セミナーの大きな魅力の一つだと思えます。

本セミナーの魅力と言えば、気軽に「ポスター発表」出来るという点も挙げられます。気軽に、というのには二つの理由があります。一つはお酒片手に発表できるという点です。私自身、学外での発表は初めてだったので、上手く説明できるか心配でしたが、その様な打ち解けた雰囲気の中で気負う事なく発表できました。また気負う事なく発表出来たという経験は、発表時における自信に繋がると思えます。もう一つは参加者の方々と知り合い、打ち解けるための多くの機会がある点です。後述しますが、クイズ等のレクリエーションを行う学生企画や自由懇親会は多くの方々と知り合う非常に良い機会でした。特に親密になった方々の発表においては、気楽に意見交換が出来、自分の専門ではない分野に対しての

見識を広げる事が出来ました。

今回のセミナーに参加して得られた最も大きな収穫は、本当に多くの研究者や学生の方々と知り合えた事であると思えます。そしてそのための最も大きな機会が前述の様な「学生企画・自由懇親会」でした。他の研究者の方々と知り合う事は、それ自体が有意義な事ですが、知り合った方々との今後の学会等での再会という点で非常に大きな意味があると思えます。幾つかの発表の機会において、その都度議論し合う事は、互いの研究内容や進行度合いのより深い理解だけでなく、独創性や戦略を共有し切磋琢磨する機会を増やす事にも繋がります。

本セミナーに参加する事は、今後の研究の発展等に繋がる大変有意義な三日間であった様に思えます。来年も是非参加させていただきたいと考えております。

最後に本セミナーを企画・運営して下さいました方々、そして講演者の皆様、並びに参加者の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

分析秘帖 ～巻ノ参～ に参加して

谷川 佳奈（京都大学大学院・工学研究科 M1）

今回、関西セミナーハウスで行われた「ぶんせき秘帖～巻ノ参～」に参加し、光栄にもポスター賞をいただき、この拙文を執筆させていただくこととなりました。2泊3日という短い期間でしたが、先生方や企業の方の講演、ポスターセッション、学生企画のクイズ大会、連日の飲み会と盛りだくさんの内容でとても楽しく有意義な時間で

した。

講演で本当に様々な方のお話を聞かせていただき、とても勉強になりました。特に、「女性研究者として就職したら」、「企業における研究活動とは」の講演はまさに自分が今知りたいところであり、女性研究者としての苦労ややりがいなど講演者の方が女性研究者として働いてこられた生のお話は

とても参考になり、自分の将来を見つめなおす良い機会となりました。また、特許に関する講演もとても興味深く、特許とは何か、なぜ必要なのか、またノーベル賞受賞者田中耕一さんの例からも分かりやすく教えていただき、今まであまり知らなかった特許や弁理士という職業にも興味が湧きました。



2日目には学生企画のクイズ大会があり、グループごとに周期表にまつわるクイズに挑戦しましたが、さすが、皆さんの知識の広さや考え方の鋭さに驚かされました。クイズの内容も真面目なものから、お笑いまで幅広く、みんなでワイワイと学校や立場を超えて盛り上がりました。また、飲み会では他の学校の人や企業の方とお話をさせていただいたり、お菓子を食べながらまったりしたり、wiiのマリオカートに夢中になったりと、本当にいろいろな方と親しく交流する機会をいただき、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。さらに飲み会後には部屋に戻り、また女の子同士での話

が盛り上がりつつ寝るのが遅くなってしまいました。

このように楽しくて勉強になる企画盛りだくさんのぶんせき秘帖でしたが、中でも一番印象深かったのは、やはり、ビールを片手にポスター発表をする光景です。昼間の講演終了後、自由時間を挟んだ後ポスター会場に向かうと、浴衣にスリッパ、そして右手にはビールを持った人がうろうろしており、しかも、その格好で普通にポスター発表をしている、そんな光景に初めはすごくびっくりしましたが、そのおかげで私もリラックスして発表をすることが出来ました。私は「マイクロヒーター集積化 PDMS チップを用いる電気泳動分析」についての発表をさせていただきましたが、多くの先生方や学生さんに聞いていただき、今後の研究の参考になる貴重なアドバイスもいただきました。また、発表を聞きに行ったときにわからないことをすんなり聞くことが出来たのも、このビール片手のポスターセッションの雰囲気のおかげだったと思います。皆さんも、是非このような楽しい雰囲気でポスターセッションをしてみたいはいかがでしょうか。

最後になりましたが、ぶんせき秘帖～巻ノ参～でこんなに楽しませていただいたのも、企画運営してくださった実行委員の皆様、講演者の方々、また参加者の皆様のおかげです。改めてこの場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

分析秘帖 ～巻ノ参～ に参加して

松浦 公香 (大阪大学大学院・理学研究科 M1)

今年初めて、分析秘帖に参加して思ったことは、他大学の学生との交流の重要さでした。

普段の研究生活では、定期的に報告を行っているのですが、メンバーが行っている研究内容については知ることは可能ですが、他大学で行われている研究内容になると、学会以外に方法が思い浮かばないというのが私の現状でした。そこで、他大学で行われている研究内容について知り、普段接することのない学生と交流の場を持ちたいと思ったので分析秘帖に参加しました。

参加する前は、ただ単に他大学の学生と話したいという気持ちがいっぱい、いろいろな人と話せばそれで満足だという気持ちでした。しかしながら、今回、自分と同じように研究を行っている学生と交流することにより、いろいろな人と話すことの大切さを学んだだけではなく、自分自身の普段の研究生活を省みることや、自身の研究に対して意欲の向上といった内面的な変化も生じました。

ポスター発表の際、他大学の学生と自身の研究について話し合うと、思ってもみなかった質問をされ、違った分野を学んでいると研究に対しての着眼点や、ものの見方が異なってくるということを見ることができ、自身の研究分野について視野が広がりました。それと同時に、学んできた分野が異なる場合、自身の研究説明にどのような話題を加



え、除くかを考えることにより、説明するという難しさを痛感しました。

また、研究だけにとどまらず、研究室の雰囲気や日々の研究生活について聞くことで、自分自身の研究室内での時間の使い方を見直すことができ、他大学の学生ががんばっているなら、自分も負けずにやろうといった実験に対する意欲・意識の変化も生じました。

二泊三日という短い時間でしたが、自分自身の研究生活に対しての振り返りや、研究に対するモチベーションの向上がはかれました。他大学の学生といろいろな話題を通して話しあい、意見を共有・交換することで、自分の世界が広がったような気がします。このような貴重な時間を一緒に過ごした学生との縁を大切に、これからも互いに切磋琢磨して研究を行っていきたいと思います。このような他大学の学生との交流の場を設けていただきありがとうございました。

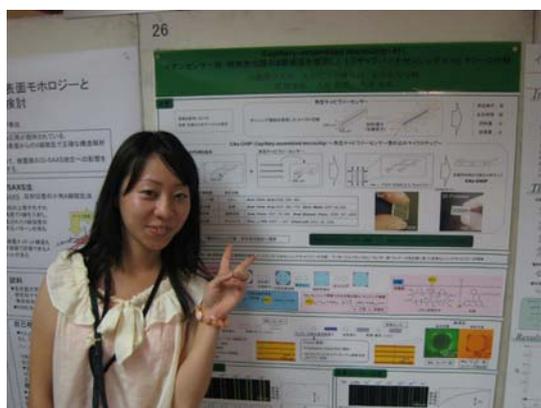
分析秘帖 ～巻ノ参～ に参加して

堤 瑛里奈 (大阪立大学大学院・工学研究科 M1)

今回は私にとって初めてのぶんせき秘帖でしたが、前期授業のテスト・レポートラッシュを前日に終えて、ポスター発表の準備もほとんどできずに当日を迎えてしまいました。ぶんせき秘帖については研究室の先輩からお話は聞いていたものの、どんな3日間になるのかなあと期待半分不安半分で関西セミナーハウス行きのバスに揺られていました。

会場についてから開会から閉会まで、時間はあっという間に過ぎ去りました。講演では、大学の先生、企業・研究所の方といった様々な分析化学に携わる研究者の方々から、ご自身の研究内容や研究観、お仕事の内容等のお話を伺うことができ、自分の研究とは異なる“分析化学”の存在を知ることができました。また、研究を仕事として続けていくには、テーマに対する大きな探究心と情熱と忍耐が必要なのだと考えさせられました。

ポスター発表は私にとって2回目の経験でした。同じポスター発表とはいっても学会とは雰囲気全く違い、お酒を片手にあちこちから笑い声が聞こえてくるというフランクな空間でした。私の発表のなかった1日目は、この分析秘帖で仲良くなった人を見つけてはその方のポスターを説明してもらいました。学会よりも、発表者の方を長時間拘束したり、気軽な質問もできる雰囲気なので、楽しく他の人の研究を知ることができました。2日目の私の発表では、昨年度の研究について説明させていただき



ました。先生方や前日に発表を聞かせていただいた方、今回知り合いになった方やそのお友達など、様々な方に研究を聞いていただき、貴重なご意見を伺うことができ勉強になりました。準備不足のためにまとまりのない説明になり自分自身では反省していましたが、まさかのポスター賞受賞に驚きました。

ポスター発表後の自由時間も楽しく参加させていただきました。理系の道を選んでは飲み会等でも男子学生に埋もれてしまうことが多かったのですが、この飲み会には女子の輪ができていました！女子学生で集まって研究室の話や就職の話などをできたことは新鮮で、大きな励みとなりました。この他にもビュッフェ形式の懇親会で親睦を深めたりクイズ大会で盛り上がりたりと楽しく充実した3日間を過ごせました。

最後に、今回の分析秘帖を企画・運営して下さった皆様に感謝申し上げます。来年度の分析秘帖を楽しみに、1年間研究において成長できるよう頑張りたいと思います。

第1回 基礎分析化学実習

主催：日本分析化学会近畿支部、近畿分析技術研究懇話会

日時：平成21年8月21日（金） 9:00～15:00

会場：滋賀県立大学環境科学部および湖沼環境実験施設 [滋賀県彦根市八坂町 2500]

平成21年度第1回の基礎分析化学実習は、昨年度に引き続き滋賀県立大学の丸尾先生に「水圏における試料採取、処理」について行っていただきました。開催日の8月21日は午後にかけて天気が下り坂という予報でしたが、午前中は風がまだ弱かったため、無事実習調査船を出していただくことができました。

当日はまず滋賀県立大学湖沼環境実験施設内の実験室にて、丸尾先生から乗船心得、水圏の観測における諸注意や、実際に使用する器具を用いながらその原理や取扱いに関する講義が行われました。参加者は合計11名で、現役の大学生から大学教授の先生まで幅広い年齢層となりました。



実習前の講義

講義終了後ライフジャケットを着用し、採水器などの使用器具を持って、施設すぐ横の琵琶湖岸に停泊中の実習調査船「はっさか」に乗船しました。丸尾先生ご自身の操舵で多景島沖（水深約48 m）に到着し、こ

の地点の水深がほぼ琵琶湖の平均水深というので、船を止めて各種実習が行われました。

今年度は堀場製作所よりケーブル長30 mまで測定可能な水中設置型多項目水質計をご出展いただきましたので、まずそれを用いて水深ごとの水温・溶存酸素・電気伝導度・ORP・pHの測定を行い、これにより夏場の琵琶湖にみられる水温躍層の存在が確認できました。



多項目水質計での水質測定

続いて丸尾先生のご指導の下、参加者が交替で各種器具を使用し湖水の採取等を行いました。湖水については、水温躍層より深い地点で採取した水は冷たく澄みきっており、臭気等も全く無く大変きれいであることがわかりました。引き続き透明度板を用いた透明度の測定、水色計による水色計測、プランクトンの採取、採泥器で採取した泥の観察を行いました。丸尾先生から、水質については悪化のピークであった昭和

40～50年代に比べると、現在はかなり改善が進んでいるとのご説明がありました。



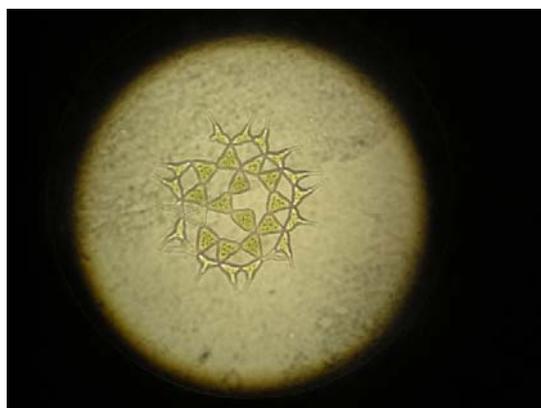
採水器による湖水の採取

実習を終えて大学に戻り昼食休憩の後、午後からは実習で採取したプランクトンを顕微鏡で観察しました。大きいものでは体長1cmに達する「ノロ」をはじめとする各種ミジンコ類や、琵琶湖の固有種である「ビワクンショウモ」、アオコの原因となる「ミクロキスチス」などが見られました。この観察をもって実習は終了し、今回の参加者へのアンケートは特に実施しておりませんが、実習内容は大変充実しており、また大変和やかな雰囲気の中で行われましたので

概ね好評だったのではないかと考えております。



プランクトンの顕微鏡観察



ビワクンショウモ

最後になりましたが、今年度も実習をご快諾いただきました丸尾先生をはじめ、湖沼環境実験施設のスタッフ・関係者の皆様方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

(産業研 竹田さほり)

近畿支部 フレッシュ役員 自己紹介コーナー (その2)

前号に引き続き、近畿支部の幹事、常任幹事になっていただいた方の自己紹介あるいは自己アピールのための小文を紹介します。

(2009年度 幹事)

氏名 (よみがな)	杉原 崇康 (すぎはら たかやす)
所属	住友電気工業 (株) 解析技術研究センター
タイトル	30歳になって思うこと
<p>こんにちは。杉原と申します。現在、住友電気工業という会社に勤めています。</p> <p>私は、今年で30歳になります。「意外に若い」なんて言われることが多く、どうも外見や話した印象に比べると若いようです (老けているってこと?)。それは別として、自分の中では一つの節目かなあ、と思う年齢ですので、最近になって考えることがあります。</p> <p>ここ数年、本当にあつという間に過ぎました。学生の頃は、年配の方の「1年がだんだん短くなるよ」なんて話を話半分に聞いていましたが、それが冗談ではなくなってきました。このまま、あつという間に人生が終わってしまいそうです。どうしてこんなに早いのか、と振り返ってみると、ここ数年は大学卒業から就職、結婚、転職、息子の誕生、身内の不幸、その間に4回の引越と、怒涛のようなイベントの波に流されてきました。仕事では社内の分析相談や依頼に対応する分析部門に所属しており、まだまだ勉強、と思うところですが、こちらも後手に回る面があるのは否めません。こう振り返ってみると、「流されてきた」感があるので時間が経つのが早い、とように思えてきました。目的意識というか、大きな目標に向かって進んでいるという実感が無いので、なんだか忙しいなあ、なんて思っている間に時間が過ぎているようです。</p> <p>ところで最近、学生や社会人の学会離れが話題になることが多いです。学会だけでなく、学校や仕事を自分から辞めてしまう人も少なくないようです。熟慮と覚悟の上で新しいことに取り組むために決断するのは違い、流れに合わせているうちに目的意識を無くしてしまい、ふと気づいたときに続ける価値を見出せない、といったことが一因かもしれません。そういうことは誰にでもあるでしょうが、流れに呑まれないように、指針となるような大きな目標を持つのが良いかもしれません。そこで私は、今更ながらではありますが、人生をかけて取り組みたいと思えるテーマを探しています。見つからないかもしれませんが、そのために色々な人と話し、自分を固めたいと考えています。</p> <p>そんな私にとって分析化学会は、仕事やプライベートを含め他では出会えない諸先生、先輩、学生の方と触れ合える場であり、人脈や視野を拓けられる場として、また、学生の頃から親みのある居場所の一つとして、とても大切です。学会は単に研究活動の道具や手段ではありません (行きつけの飲み屋が、飲むためだけにある訳じゃないのと同じ?)。今年度、近畿支部の役員を拝命致しました。大変、ありがたいことと感謝しています。学会活動を微力ながらお手伝いさせて頂き、これまで以上に人の輪を拓げて自分の糧にしているかと企んでおります。</p> <p>最後になりましたが、若輩者ですので、いろいろとご指導ご鞭撻頂ければ幸いです。今後ともどうぞよろしくお願い致します。</p>	



(2009 年度 幹事)

氏名 (よみがな)	壺井 基裕 (つぼい もとひろ)
所属	関西学院大学理工学部化学科
タイトル	はじめまして
<p>日本分析化学会近畿支部会員の皆様、はじめまして。2009 年度より近畿支部幹事に就任いたしました、関西学院大学理工学部化学科の壺井基裕と申します。私の専門分野は「地球化学」で、学生時代より岩石に含まれるルビジウムやストロンチウムなどの同位体組成分析から、岩石の起源や年代測定についての研究を行ってまいりました。身近にある岩石や鉱物は歴史を記録した「タイムカプセル」です。黙っていても何も話してくれない石ころですが、分析化学の手法を駆使して問いかけてやることにより、情報を引き出すことができます。多種多様な岩石の中でも、私が特に研究対象としてきたものは、御影石の名前で有名な「花崗岩」です。花崗岩は大陸地殻を構成する主要な岩石であり、また惑星の中で地球にしか大量に存在しない、「地球」を特徴づけるユニークな岩石です。しかし、その起源や形成過程は詳しく分かっておりません。花崗岩を中心とした大陸地殻が地球の歴史を通してどのように進化してきたかを明らかにすべく、日々研究を行っております。研究スタイルは、フィールドワークによる野外調査、岩石試料の採取と研究室での質量分析計や蛍光エックス線分析法を用いた化学分析です。私の研究室には現在、修士学生 2 名と学部卒業研究生 4 名が在籍しており、各自が地球化学に関連したテーマについて研究を行っています。フィールドワークが初めての学生がほとんどであり、現場では特にサンプリングの重要性について分かってもらえるように指導しております。岩石や水などの地球環境試料の分析は高い精度が要求され、その要求に応えるべく分析手法や機器が開発され、その新手法によってまた新しい地球化学的知見が得られるという繰り返りで、「地球化学」と「分析化学」は、互いに進歩してきました。私は元々化学ではなく、地質学の出身ですが、少し違った視点から、微力ではありますが学会のお役に立てればと思っております。どうぞよろしく願いいたします。</p>	



(2009 年度 常任幹事)

氏名 (よみがな)	小池 亮 (こいけ りょう)
所属	花王株式会社 解析科学研究所
タイトル	地方の企業研究者を代表して？
<p>今年度より、日本分析化学会近畿支部の常任幹事として、支部運営のお手伝いをさせていただくことになりました。近畿支部のさらなる発展のため、微力ながら全力を尽くしたいと思います。</p> <p>私は入社以来、分析部門一筋で研究を行っています。主な研究テーマは「界面活性剤の分離・定量技術の開発」ですが、界面活性剤が実際に使用される洗浄・乳化・分散などの場面でどのように作用しているのか</p>	



を明らかにするため、クロマトグラフィー以外にも、NMR や IR などの各種分光法や原子間力顕微鏡をはじめとした表面分析法など、様々な分析技術に接してきました。そのような経緯もあり、分析化学に関連する幅広い領域の研究者が一堂に会する日本分析化学会主催の学会は、私にとって情報交換や情報収集、さらには研究者の方々と顔見知りになる絶好の機会です。これまでも大変お世話になってきました。今回、そのような学会の支部運営に携わる機会を与えていただいたことを大変うれしく感じると

ともに、少しでも恩返しができればと思っています。本年度の支部役員名簿をみるとほとんどの方は大学関係者のようですので、企業の研究者ならではの視点や観点を活かして支部運営に協力し、特に企業の若手研究者の積極的な学会参加や参画に少しでも貢献できればと考えています。また、大都市ではなく地方（和歌山）で活動する研究者としての意見も大いに発言するつもりです。

冒頭にも述べましたが支部のさらなる発展に向け、澁谷支部長のご指導の下、他の役員の方々と力を合わせて努力していきたいと思っておりますので、皆様方のご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

(2009 年度 幹事)

氏名（よみがな）	中林 安雄（なかばやしやすお）
所属	関西大学 化学生命工学部 化学・物質工学科
タイトル	「分析化学」について思うこと

平成 21 年度に近畿支部幹事を仰せつかりました関西大学化学生命工学部の中林安雄でございます。この度「フレッシュ役員紹介」のコーナーへ寄稿させていただきますが、講義等でまだ一度も幹事会に出席しておりませんこと、大変恐縮しております。私は関西大学工学部（現在は 3 年前に改組し、理工系 3 学部になっています）に平成 2 年 4 月から勤務しております。研究室は錯体化学の合成をメインにした研究を進めていましたので、「分析化学」からは遠ざかり現在に至っています。このような現状で、研究面での「分析化学」について記述するには的外れになることは必至でありますので、最近大学において講義をしていて感じています教育面での「分析化学」の重要性について記述させていただきます。近年、本学においても一般入試とは別に、種々のアラカルト入試が行われ、個性豊かな学生が多くなっています。ただ弊害（？）として、少数ですが化学を専攻するのに、高校で「化学 I」（化学平衡は「化学 II」）しか学習していない学生が入学するようになってきました。その結果、講義に対する学生の理解度に大きな格差が出るようになりました。例えば、モル濃度や pH の計算ができなかったり、学生実験では溶液の希釈ができなかったりと由々しき事態が発生しております。このように、初歩的な知識を習得していない学生を、将来研究者・技術者へと育てるためには、大学での基礎教育として、溶液平衡を扱う「分析化学」の重要性が増していると痛感しています。また、4 年生の卒業研究や大学院生の研究では、最新機器を用いて測定を行っています。その際、測定すればその値はすべて正しいと捉えてしまう学生が多くなってきたように思います。この点においても、「分析化学」の重要性があるので



はないかと考えています。

(2009 年度 幹事)

氏名 (よみがな)	才原 康弘 (さいはら やすひろ)
所属	パナソニック電工(株) 電器 R&D センター 美容科学研究室
タイトル	分析化学のユビキタス社会での役割と期待
<p>日本分析化学会近畿支部の幹事に推薦いただき、4月から一員として、メーカーの立場で学会に微力ながらお役に立てればと考えます。さて、「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」がコンピューターなどのネットワーク上で相互につながるにより、意識をせずに様々なサービスの提供により、人々の生活をより豊かにするユビキタス社会の実現に向けたさまざまなインターフェース、社会環境の整備、IT技術の革新が目覚ましい勢いで進められています。</p> <p>一方で地球環境の温暖化、環境汚染、新型ウィルスの拡大も全世界的に広がりつつあり、また、ナノ粒子の生体安全性に対する結論は、この先の研究結果待ちと言われてますが、どれぐらい先なのか不透明状態など、明と暗の部分が相交えて、地球に優しくかつ便利で安全安心な社会が、いつマイルストーンとして達成できるのか見えないと危惧されています。次世代にうまくバトンタッチするために、高い視座に立って自然科学、社会科学の両面から、現実を見て将来を予測して、みんなでベクトルを共有化して行動することが重要であると考えます。</p> <p>行動する物差しとしては、まずは計測、分析することが必要であり、時代は分析技術の高度化を望んでいます。すなわち計測値のSN比の増大と共に、簡便にその場で計測できることであり、分析化学に対するニーズも多方面から挙がってきており、益々、本学会への期待も大きくなることは周知のことです。ユビキタスな安心安全な社会の実現に向け、産官学連携での化学的計測技術の研究開発により、いつでもどこでも実用できる小型、低コストかつ使い勝手のよい製品開発へ、日本分析化学会の飛躍と貢献を大いに期待いたします。</p>	



***** 日本分析化学会近畿支部 *****

あとがき：今号は夏に行われた「ぶんせき秘帖～巻ノ参～」の特集であり、昨年と同様にポスター賞を受賞された方にも記事を執筆していただきました。また、前号に引き続き新役員の自己紹介コーナーも掲載されております。寄稿していただいた皆様に心より感謝いたします。ぶんきんニュースでは、よりよい紙面にするために皆様のご意見・ご要望をお待ちしています。(久保 公二)